

幼稚園だより 5月号



中央区立豊海幼稚園 03 (3533) 0725
 HP <http://www.chuo-tky.ed.jp/~toyomi-kg/>
 令和5年4月28日

教育目標

- げんきな子
- やさしい子
- がんばれる子

子供の心が育つ土台

園長 山口 晃司

新年度が始まり、1ヶ月。「風薫る5月」となりました。進級した喜びに満ちた笑顔で元気に登園してきた年中組・年長組。初めての集団生活でお家の方と離れることに不安を感じたり、緊張しながらも何とか自分なりの居場所を見つけて過ごしたりした年少組。新しい環境に慣れるのに、子供達一人一人様々な思いを抱きながら過ごしてきたことを感じられます。おそらく、保護者の皆様も、新しい学級担任のことや保護者同士の関係作り、特に年少組は、初めての園生活に、我が子がどのように過ごしているか心配されたことと拝察します。子供達にとっても保護者の皆様にとっても、そして我々教職員にとっても、がんばってきた1ヶ月だと思えます。ちょうど、ゴールデンウィークが始まり、連休になるので休み明けは、4月当初の姿に戻る子どもや今まででなんとも無かったのが、急に不安がったりする子どももいるかと思いますが、どうぞ保護者の皆様は、ゆったりと構えて「楽しんでいらっしやい」と送り出していただけたらと思います。

さて、「母の友」4月号(福音館書店)を読んで、紹介したい特集記事がありました。それは、「わたしを大事にするヒント」の中の「対談・宮地尚子×小林エリカ」です。『今の社会は交感神経優位なんです。そういう社会においては、「はやく、たくさん」できたほうが良いとされる。でも子育てにおいては「はやく、たくさん」思想よりも、むしろ反対の「のんびり、すこし」を重視したほうが良いんです。つまり、リラックスした状態の方が親だけでなく、子どももほっとできる。精神科医という仕事柄、学校に通えないなど、様々な状況を抱えた親子と接する機会があります。そういうとき、子どもに対して「さらに何をしてあげるか」ではなく、「今より何をへらすか」を考えることが重要な場合が多いんです。子どもの心が育っていく上で土台となるのが「安心感」や「安全感」です。そうした感覚を持つためには、交感神経優位、テンションが高い状態からときどき外してあげることが必要です。毎日予定がびっしりつまっているなら、今日は何もしないでちょっとぼーっとしてみよっか、と提案してみる、とかね。これは大人に対しても有効で、私は時々、大学の研究室を訪ねてきたお客さんと一緒に、学内の芝生の上に、ごろんと寝転がることあるんです。そのまま五分、十分くらい何もしない。そういう時間を経ると、お互いテンションがゆるむんですよね。さっきまでとは不思議と違う回路で話ができる。芝生の上を、はだしで歩くのもいいですよ。普段使っていない感覚を使うことで、自分の体を改めて意識することになりますし、自分を取り戻すことにもつながると思います』とのこと。

大型連休の機会で、親子でゆったりと過ごすことを意識していきましょう。心と体のバランスを取っていくことが、親子共々大切な時間の過ごし方になりますね。そして、普段はなかなかできない、我が子の生活の様子をじっくり見てあげてください。身支度、食事のマナー、排泄の処理(ペーパーで拭き取れているか。また男の子は小便の際は拭かない)等、子供達の新生活を支えてください。

<各学年のねらいと主な活動>

年少組	年中組	年長組
○幼稚園に喜んで登園し、自分のやりたい遊びを楽しむ。 ○戸外で身体を動かす心地よさを感じる。 ○生活、遊びの場や遊具の使い方を知る。 <主な活動> ・ウレタン積木 ・戸外遊び (虫探し、追い掛けっこ、砂場 等) ・リズム『動物体操123』 ・クレパスを使った製作 ・歌『おつかいありさん』	○生活に必要なことが分かり、自分から行おうとする。 ○気の合う友達と関わりながら、一緒に遊ぶことを楽しむ。 ○学級の友達が分かり、みんなで活動する楽しさを味わう。 <主な活動> ・中型積木 ・鬼あそび『しっぽ取り』 ・リズム『昆虫太極拳』 ・製作『鳥』 ・歌『みどりのマーチ』	○戸外でのびのびと身体を動かしているような運動遊びを楽しむ。 ○友達と一緒にやりたい遊びをする中で、自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、活動することを楽しむ。 ○学級やグループのみんなで活動したり、遊んだりする楽しさを味わう。 <主な活動> ・構成遊び(大型積木、巧技台、ゲームボックス) ・鬼遊び『ネコとネズミ』など ・勝どきギャラリイの作品作り ・製作『誕生人形作り』 ・歌『地球はみんなのものなんだ』等